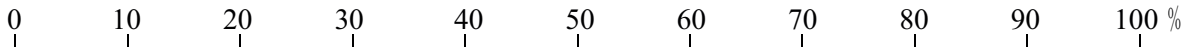


4 成果と課題

I 児童・教師意識調査から

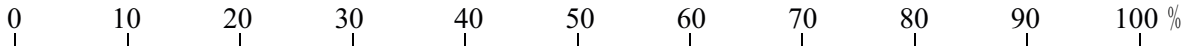
①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

1 中学校における授業参観をととして中学校の学習に興味・関心が高まった。



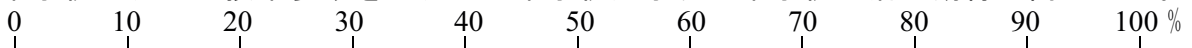
児童
教師

2 中学校における授業参観をととして自分の学習に対する取組の参考になった。



児童
教師

3 中学校における授業参観をととして中学校入学及び中学校生活に期待が高まった。

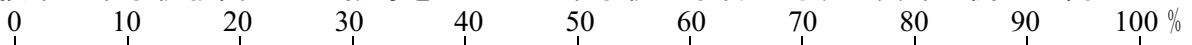


児童
教師

児童感想

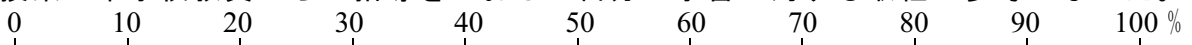
- ・授業時の中学生の姿勢がとてもよいと感じました。あのような中学生になりたいと思います。
- ・先生の話をしっかり聞いて授業に取り組んでいたこと、静かに授業を受けていたこと、積極的に発表していたことがよかったです。私もしっかりとした中学生になりたいと思います。
- ・授業のペースが速くてついて行けるか不安になりました。ほとんどの人がまじめに授業を受け進んで発表していたところがすごいと思いました。来年がとても楽しみです。

4 授業で中学校教員からの指導をととして中学校の学習に対する興味・関心が高まった。



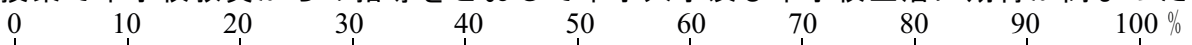
児童
教師

5 授業で中学校教員からの指導をととして自分の学習に対する取組の参考になった。



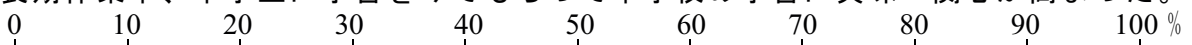
児童
教師

6 授業で中学校教員からの指導をととして中学入学及び中学校生活に期待が高まった。



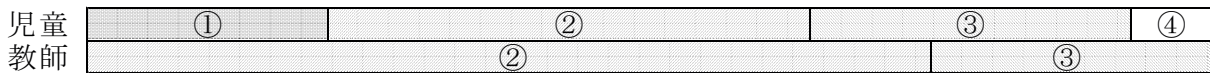
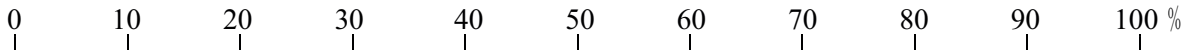
児童
教師

7 長期休業中、中学生に学習をみてもらって中学校の学習に興味・関心が高まった。

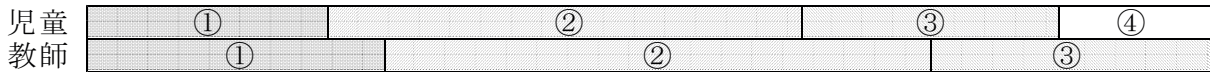
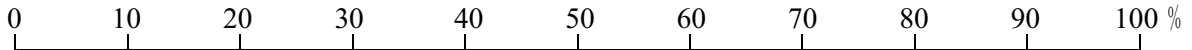


児童
教師

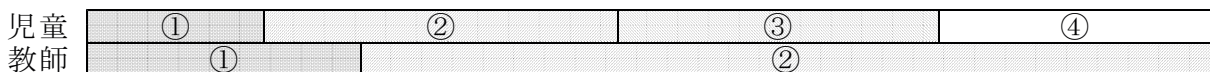
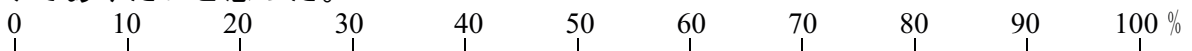
8 長期休業中、中学生に学習をみてもらって自分の学習に対する取組の参考になった。



9 長期休業中、中学生に学習をみてもらってわかりやすかった。



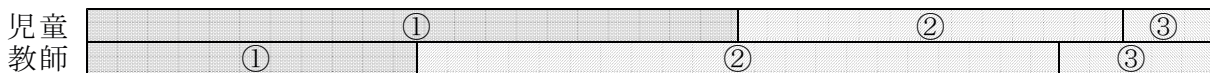
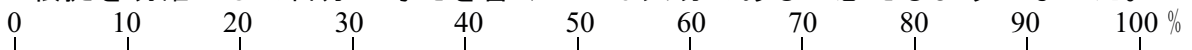
10 長期休業中、中学生に学習をみてもらって中学生になったら自分も小学生の学習をみてあげたいと思った。



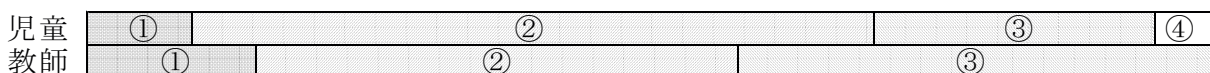
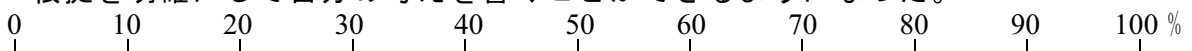
児童感想

- ・中学生から詳しく教えてもらった。特に文章題が難しかったが教えてもらいできるようになったのでよかった。
- ・中学生の教え方がすごく分かり易かった。
- ・中学生に採点してもらい、間違えたところは細かく分かり易く教えてもらえた。
- ・中学生から解法のポイントを教えてもらった。

11 根拠を明確にして自分の考えを書くことは大切であると思えるようになった。



12 根拠を明確にして自分の考えを書くことができるようになった。

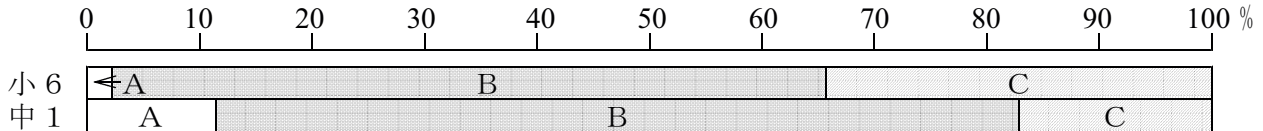


- 1 小学校6年生を対象にした中学校における授業参観は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を含めると90%以上の児童が中学校の学習に対する興味・関心を高め、90%近くの児童が現在の自分の学習に対する取組の参考となり、85%の児童が中学校入学及び中学校生活に期待感を高める機会となった。
担任教師も同様な結果が見られ、中学校生活を実際に参観することにより、実感できたものと思われる。
- 2 算数の授業における中学校教員による指導は、「小学校6年生を対象にした中学校における授業参観」と同様に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を含めると90%以上の児童が中学校の学習に対する興味・関心を高め、現在の自分の学習に対する取組の参考となり、中学校入学及び中学校生活に期待感を高める機会となった。
このことも、中学校教員が実際に指導したことにより実感できたものと思われる。
- 3 長期休業における中学生による小学生の学習支援は、60%以上の児童が中学校の学習に対する興味・関心を高め、現在の自分の学習に対する取組の参考となり、中学校入学及び中学校生活に期待感を高める機会となった。
「7 中学生になったら自分も小学生の学習を見てあげたい」は、47%の小学生が「教わること」とおして「教えること」の意識をもったことがうかがえる。

4 根拠を明確にして自分の考えを書くことは、「大切である」と思っている児童は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を含めると90%以上である。「書くことができるようになった」は70%である。担任教師は十分とはとらえておらず今後も継続指導をとおして根拠を明確にして自分の考えを書く活動を充実していく必要がある。

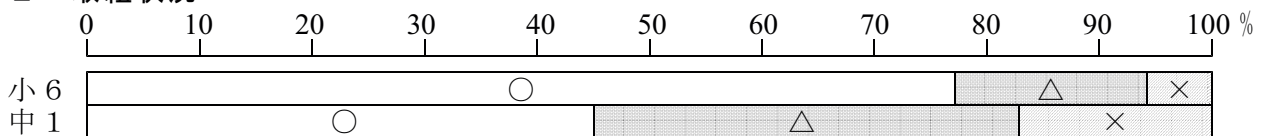
II 家庭学習強化・ノーメディア推進週間結果から

1 取組内容



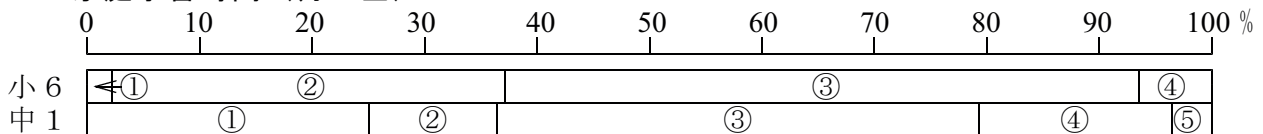
A : テレビを見ないゲーム等をやらない B : テレビやゲーム等の時間を決める
C : 決めた時刻以後は見ない、やらない ※「ゲーム等」には携帯等の通信等を含む

2 取組状況



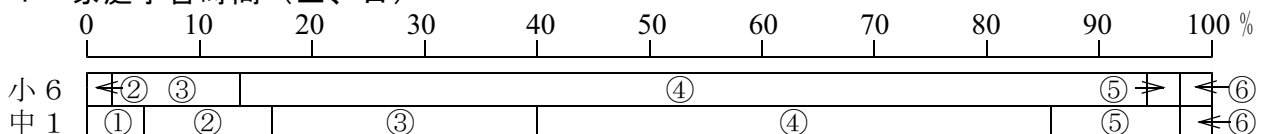
○ : 完全に・ほぼ実行できた △ : 半分程度実行できた × : 実行できなかった

3 家庭学習時間 (月～金)



① : 3時間以上 ② : 2時間以上3時間より少ない ③ : 1時間以上2時間より少ない
④ : 30分以上1時間より少ない ⑤ : 30分より少ない ⑥ : 全くしない

4 家庭学習時間 (土、日)



① : 4時間以上 ② : 3時間以上4時間より少ない ③ : 2時間以上3時間より少ない
④ : 1時間以上2時間より少ない ⑤ : 1時間より少ない ⑥ : 全くしない

家庭からの主な感想

- ・ この取組は、学習面、生活面にメリハリがついてよいと思う。
- ・ 家庭学習を自主的に頑張っていた。これからもこの取組を継続したい。
- ・ 家族みんなで声を掛け合いながら行った。家庭で達成感があってよかった。
- ・ 慣れてくると本人も家族も特に苦に感じることもなく取り組むことができた。
- ・ ゲーム機などは就寝時に自分の部屋に持ち込ませないようにしました。
- ・ メディアのない生活は難しいようです。親も一緒に本を読んだり、トランプをしたり、考えて生活しないといけないと感じました。
- ・ 午後7時以降はテレビを見ないようにしています。期間中はゲームをしないと約束し、守ることができました。
- ・ ゲームの時間を減らすことができた。学習時間も目標を持って取り組ませたい。
- ・ もう少し家庭学習の時間を長くさせたい。特に休日はしっかり学習に取り組んで

もらいたい。

- ・ 週末は予定通りにはいかなかった。
- ・ 子どものやる気・意識が低い。声をかけても無理だった。親の声かけも限度がある。
- ・ スマホやiPadなど家族が共有している。親主導でなければトラブルが起きやすいと思う。

- 1 取組内容は、小学校6年生、中学校1年生とも「B：テレビやゲーム等の時間を決める」が多かった。
 - 2 取組状況は、小学校6年生の78%、中学校1年生44%が「完全に・ほぼ実行できた」と回答している。
- ※ 家庭学習習慣の育成の観点からは、「決めた時刻以後は見ない、やらない」を意識させ、家庭の協力を得るとともに継続指導をとおして習慣化を図る必要がある。
- 3 家庭学習時間（月～金）の平均は、小学校6年生、中学校1年生とも「1時間以上2時間より少ない」が多い。「全くしない」児童生徒は、いない。
 - 4 家庭学習時間（土、日）の平均は、小学校6年生、中学校1年生とも「1時間以上2時間より少ない」が多く「月～金の学習時間」と差がない。小学校6年生では、「3時間以上4時間用より少ない」の児童も見られるが月～金「2時間以上3時間より少ない」の児童が減少している。同様に中学1年生でも「4時間以上」の生徒も見られるが「3時間以上」の生徒が減少している。「全くしない」児童生徒も数名見られる。
- ※ 家庭学習の習慣の形成については、今後も家庭の協力を得て習慣化を図る必要がある。特に、土、日の家庭学習についてスポーツ少年団や部活動の大会や練習、遠征等があり、時間の確保が難しい状況もあるが平日並み、または、それ以上、取り組むことの必要性を意識させるとともに取り組ませ方について指導を要す。

Ⅲ 事業推進の全体をとおして（第2回推進会議）

- 「小学校6年生を対象にした中学校における授業参観」「算数の授業における小・中学校教員によるTT指導」「長期休業における中学生による小学生の学習支援」の取組は、児童の中学校の学習に対する興味・関心を高め、現在の自分の学習に対する取組の参考となり、中学校入学及び中学校生活に期待感を高める機会となった。中学校1年生にとっても参観されたり、小学生の学習を支援したりすることをおして自己の学習のあり方を振り返り、学ぶ意識の高揚につながった。
- 「家庭学習強化・ノーメディア推進週間」の取組は、これまで各校において望ましい学習習慣・生活習慣の育成の一環として推進していたものを小・中学校に在籍している子どももいること、また、6校PTA連絡協議会においてメディア問題は喫緊の課題であることの共通認識を踏まえて小・中学校共通に取り組むこととおして家庭における学習や生活について意識する機会となった。
- これまでも小中連携の実践はあったが、今回、小・中学校教員が、中学校における各教科指導の課題を共有したり、全国学力・学習状況調査結果から課題を洗い出し、その課題解決に向けた方策を策定・共通実践できたことは意義があった。
- 既存の組織であったり、既存の取組を「つなぐ」視点を意識して展開できたりしたこと無理のない取組であったことから次年度も継続できるものである。
- 取組時期について、もっと早い時期から取り組めればよかった。年間計画を提案していただくと検討できる。
- 小・中学校の「学習・家庭学習の手引き」について「つなぐ」視点から吟味する必要がある。
- 望ましい学習習慣・生活習慣の育成については、家庭の協力は不可欠であり、保護者を揺り動かす必要がある。6校PTA連絡協議会で「あいさつ」や「体力づくり」「携帯電話やスマートホンの使わせ方」等について共通認識に立ち、努力目標等を提言し、共通実践できるとよい。

今後も、各小学校と中学校との連携（点と点）から課題の共有、課題解決に向けた共通実践（線）へ、それを中学校がつなぎ（面）、子どもたちが夢や目標を実現できる確かな学力、豊かな心、健康・体力をはぐくみたい。